

平成30年度 「千代田学」事業実績報告書

小学生を対象にした千代田区の地域素材の 教材化に関する実践的研究

— 「千代田区子ども検定」の作成・発信 —



共立女子大学家政学部児童学科

本澤 淳子

平成30年度「千代田学」事業実績報告書

小学生を対象にした千代田区の地域素材の
教材化に関する実践的研究

—「千代田区子ども検定」の作成・発信—

共立女子大学家政学部児童学科

本澤 淳子

小学生を対象にした千代田区の地域素材の教材化に関する実践的研究

— 「千代田区子ども検定」の作成・発信 —

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| I 本事業の概要 | 5 |
| 1 事業の名称 | |
| 2 事業の内容 | |
| 3 千代田区との関連性・区政や地域への貢献 | |
| 4 事業を行う目的及び目指す最終的な到達点 | |
| 5 研究計画・研究方法 | |
| 6 成果の発表・活用方法 | |
| II これまでの研究概要 | 8 |
| 1 1年次の概要 検定問題の試作から「お試し版」の作成 | |
| 2 2年次の概要 「チャレンジ版」の作成 | |
| III 本年度の研究 | 25 |
| 1 「千代田区子ども検定 Web 版」の構成 | |
| 2 地域行事におけるデモンストレーション | |
| 3 考察 | |
| IV 研究の成果と課題 | 31 |
| 参考文献 | 32 |
| 終わりに | 33 |

資料編 「千代田区子ども検定」(×115%)

はじめに

1 小学生は未来の地域の担い手である

■「千代田区子ども検定」の作成・発信

本事業により作成・発信しようとしている「千代田区子ども検定」は、小学校の社会科、総合的な学習の時間等における学習指導を前提に、これをさらに生活化、日常化することを目的とした「地域素材の教材化」の一つの方法である。

児童は、千代田区について、各教科等の学習指導や学校行事、地域行事を通して学び、また、日々の生活においても、地域の文化、歴史、自然等さまざまな体験を重ねて学んできている。千代田区についてのこうした学習や体験を、「千代田区子ども検定」という視点から構成して児童に提供するのがここでの主たる研究内容である。

この検定を楽しく体験することにより、児童は、身近な地域についての知識をより確かなものにしたり、新たに知識を獲得したりすることができるだろう。「検定」を体験することを通して、「千代田区についてはよく知っているつもりだったけれど、こんな歴史があることは知らなかった」、「自分でももっと詳しく調べてみたい」、「このお祭りに家族で出かけてみたい」などのように、千代田区への愛着・親しみ・誇りなどがより一層高まることが期待される。

■千代田区の児童にとっての「ふるさと」

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）「社会」では、第 3 学年、第 4 学年に共通する目標として、「(社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、) 思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。」(括弧、下線は筆者が施した) と掲げられており、地域学習の主題とされている。

また、「総合的な学習の時間」においても、「第 2 各学校において定める目標及び内容 3 各学校において定める目標及び内容の取扱い (5)」では、「目標を実現するにふさわしい探究活動については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。」のように、地域教材を土台とした学習活動が奨励されている。

本事業は、児童の学習や生活を中心として、同心円上に広く位置づくものであるから、

上記の下線を施した部分についてはここでも重視する必要がある。下線部の「地域社会」を「千代田区」に置き換えると、「千代田区に対する誇りと愛情」、「千代田区の一員としての自覚」となる。これは、本事業のキーワードでもある。

小学生は、10年後、20年後には社会の担い手として活躍する人材となる。千代田区で育った児童は、この地で、あるいは千代田区から日本各地、世界へと羽ばたき活躍することだろう。その児童の「ふるさと」がこの千代田区である。「ふるさと」の言葉から私たちは都会から離れ自然に囲まれた土地を思いうかべてしまいがちであるが、千代田区で学ぶ児童にとってのふるすとは、この現代的な街、日本の中心とも言えるこの地である。児童がこの千代田区にさらに愛着をもち、誇りをもつこと、言わば「ふるさと意識」の醸成は、一人一人を豊かに確立させるだけでなく、将来の千代田区発展に寄与することにつながるものである。

2 「千代田区」に関する地域素材の教材化

■地域素材を教材化することの意義・課題

地域は、児童にとっての遊びの場であり、生活の場である。そこで、児童はさまざまな事象・事物に直接ふれている。「地域」とはこのように児童にとって極めて身近なものであるが、これを教材化する有用性については、次のように考えることができる。

- ・児童の生活の中から出てきた経験を活用・尊重することができるため、学習に対する興味・関心や意欲を高めることができる。
- ・課題に対して、児童自らが調査したり、資料の収集・作成等を行ったりすることも可能であるため実感をもって取り組むことができ、主体的な学習活動が期待できる。
- ・児童の生活経験の中から生まれた意識と結んで考えることにより、児童と事象・事物との距離を縮めることができる。
- ・地域と自分とのつながりがより明確になり、地域社会の一員としての自覚を促すことができる。

このような意義が挙げられる一方で、地域学習における教材開発には以下のような難しさも想定することができる。

- ・教科書（副読本）の事例と自分たちの住んでいる地域の事例とが異なるために、教科書を十分に活用することが難しい。
- ・地域学習を進めるにあたって、指導者がその地域を知り、学習に適した地域素材を見つ

け、その地域素材を教材化し授業を展開するのは容易なことではない。教材化を図るといっても、その方法がわからないといった声も多く聞かれる。地域教材の開発に必要な地域観察力やフィールドワーク技法を身につけることが望まれる。

- ・実際の授業場面においても、見学やまとめることに時間を費やしてしまい、「調べっぱなし」、「資料を書き写しているだけ」のような、学習のねらいに迫りきれていないケースも見られる。

このように、指導者は、時間的な余裕がない、指導者自身が地域を十分に知らない、といった悩みを抱えながら、地域学習の指導にあたっているのが現状であると言ってよいだろう。

■大学生だからこそできる地域教材開発を

共立女子大学家政学部児童学科・本澤ゼミの学生の多くは小学校教員を目指している。いずれ、それぞれが採用された地で、地域素材を教材化する必要に迫られることもあるだろう。そこで、「学生に共通するふるさと」として本学の所在地である千代田区を取り上げて、地域教材の開発を実際に行ってみることを計画した。

現職の教員に比べれば時間の余裕もあるこの時期だからこそ、フィールドワークにも取り組むことが可能である。インターネットで調べれば情報が容易に入手できる時代であるからこそ、自分自身で見聞きし、地域の方々と実際にふれあいながら情報を収集し、地域学習の醍醐味を味わいながら教材開発を行うよさを知ることできるだろう。

ここでの「地域教材の開発」とは、単に地域の興味深い素材を見つけ出してくることを意味するものではない。素材を見いだすことはもちろんであるが、児童が行うであろう学習活動（課題の設定から調査、情報の構成、発信までの一連の情報処理活動）をゼミ生が実際に進めてみる、すなわち、学習者の視点に立った地域教材の開発を行うことを意図している。

具体的には、本澤ゼミ生が、千代田区の文化・歴史・自然等について学習者の視点で調べ、収集した情報をクイズとして構成する。これを「千代田区子ども検定」として、小学生中高学年及びその保護者を対象に発信し、実際に検定問題を楽しく解いてもらおうとするものである。

■「千代田区子ども検定」の作成・発信

20年ほど前になるが、「ご当地検定」が脚光を浴びた時期があった。たいへん有意義な取り組みであるにもかかわらず、一時の流行として扱われる傾向も見られたのは残念なこ

とであった。しかし、日本商工会議所認定のご当地検定は現在も多くが継続され、この数年で新たに生まれた検定もある。ご当地検定は、その地に暮らす者が自らの郷土愛を「検定」で試してみるという仕組みそのものが楽しく、また、検定を受けることによって新たに知識を得る機会にもなる。千代田区は、江戸時代から日本の中心となってきた地であり、文化や歴史も検定問題として掬い取れないほど豊かな地域であるが、千代田区の魅力を検定によって児童に少しでも伝えたいと考える。

本事業では、本澤ゼミ生が学習者の視点に立って千代田区についての情報収集を行い、「千代田区子ども検定」として発信する実践的研究を行う。検定を受ける対象を、千代田区の小学校中・高学年児童とその保護者と想定し、また、最終的には検定問題を特設ホームページによって公開し、いつでも楽しむことができるものにしていく計画である。

I 本事業の概要

1 事業の名称

小学生を対象にした千代田区の地域素材の教材化に関する実践的研究
—「千代田区子ども検定」の作成・発信—

2 事業の内容

千代田区について、児童は各教科等の学習指導や学校行事、地域行事を通して学び、また、日々の生活においても、さまざまな体験を重ねながら地域の文化・歴史・自然等を学んできている。千代田区についてのこうした学習や体験を、「千代田区子ども検定」として構成し、児童に提供するのが、主たる研究内容である。

具体的な取り組みとしては、以下のようなになる。

- 共立女子大学本澤ゼミの学生が中心となり、小学生（小学校中・高学年児童）の視点から千代田区の地域素材（歴史・文化・自然等）について取材・調査等の情報収集を行う。
- 収集した情報をもとに、「千代田区物知り博士」を目指す「千代田区子ども検定」を作成する。
- 「検定」は、冊子による部分公開を通して小学生に適した内容となるよう改善し、最終的には特設ホームページで公開する。

千代田区内の小中学生やその保護者が「検定」を楽しく受けて地域のすばらしさについて語り合い、千代田区についてさらに理解を深めたり、千代田区への愛着・誇りをより高めたりすることを意図するものである。

また、「検定」を作成するからには、学生にも千代田区について熟知することが求められる。一連の研究活動を通して、学生も千代田区を「第二のふるさと」として親しむようになることが期待される。

3 千代田区との関連性・区政や地域への貢献

本事業により作成・発信しようとしている「千代田区子ども検定」は、小学校における社会科、総合的な学習の時間等における学習指導を前提に、これをさらに生活化、日常化することを目的とした「地域素材の教材化」の一つの方法である。

「千代田区の物知り博士」を目指す「千代田区子ども検定」を楽しく体験することにより、

身近な地域についての知識をより確かなものにしたたり、新たに知識を得たりすることができるだろう。「千代田区について知っているつもりだったが、このような歴史があるとは知らなかった」（身近な地域についての知識）、「もっと詳しく調べてみたい」（興味・関心）、「このお祭りに家族で出かけてみたい」（知識→行動化）のように、千代田区の一員としての誇り、千代田区への愛着や誇りがより高まることが期待される。

平成 28 年度、区内小学校に在籍する第 3～6 学年児童に「千代田区子ども検定・お試し版」を配付し、正答の状況を把握した。第 3 学年が 55%、第 4～6 学年は 64～65%と、第 4 学年以上は学年が進んでも正答率は横ばいであった。地域についての情報収集力や行動力が飛躍的に伸びると考えられるこの時期に、地域に関する情報が増加していない児童の現状から、地域との結びつきが希薄になっている現代の子どもたちの生活も見えてくるようである。

こうした状況であるからこそ、「地域素材の教材化」を推進する意義がある。「検定問題」はその一つの方策であるが、地域への意識化は、地域で児童の現状を明確に共有し、地域をあげて取り組むべき課題であろう。

4 事業を行う目的及び目指す最終的な到達点

- 千代田区の歴史・文化・自然等について、小学生の視点からフィールドワークを中心とする情報収集を行い、その情報をもとに児童及びその保護者を対象とした「千代田区子ども検定」を作成・発信する。
- 千代田区小学生親子が「千代田区子ども検定」を受ける楽しさを味わいながら、「わが町・わがふるさと 千代田区」の歴史・文化・自然のすばらしさを実感し、郷土への愛着・誇りがさらに高まることを目指す。同時に、検定を提供する学生側にも「千代田区」への親近感が増すようになる。

5 研究計画・研究方法

本研究は、平成 28 年度から 3 年計画として、共立女子大学本澤ゼミの学生を主体に、以下のような方法・手順を進める。

①小学生の視点に立った文献研究、情報収集

区内の小学校中・高学年児童にとって、千代田区についての情報源となっていると考えられる資料を収集・精査し、小学生の視点から素材を選定する。資料としては、『社会科副

読本 わたしたちの千代田区』(千代田区教育委員会発行)、千代田川柳絵葉書かるた、千代田区ホームページ、千代田区観光協会ホームページ及び同協会が配布している観光案内、各小学校学校要覧等が考えられる。これに現地調査も加えながら、素材の選定を行う。

②交流の生まれるフィールドワーク

- ・選定した素材について、ゼミ生が地域の方々と交流し地域の実情等を把握しながら、取材、聞き取り調査、写真撮影等を行う。
- ・千代田区教育委員会、千代田区立小学校、町内会役員の方々に、地域の現状などについて助言・指導をいただき、より児童の興味・関心に即した内容とする。

③地域の情報を「千代田区子ども検定」として構成・発信

検定問題は、「問題—選択肢(四択)—答え—解説」の構成とする。ゼミ生が撮影した画像を挿入したり、解説には「ここで一句」を添えて情報がより印象的になるようにしたりして、楽しく興味をもって検定を楽しめるような工夫をする。

発信については、冊子による部分公開を経て、最終的には特設ホームページでの公開とする。

6 成果の発表・活用方法

区内の小学生とその保護者を主たる対象に、「千代田区子ども検定」として以下のような方法で発信する。

○平成 28 年度

小冊子による「お試し版」として作成。千代田区立小学校第3～6学年児童全員に配付し、解答の状況を把握する。また、児童、小学校関係者等から実際に解いて気づいたことや改善点等についてアンケート調査を実施する。

○平成 29 年度

アンケート結果をふまえて検定問題を改善するとともに、検定問題数をさらに増やし、「千代田区博士チャレンジ版」として千代田区立お茶の水小学校で実施。個々の解答の状況、検定問題に対する興味・関心等を把握する。

○平成 30 年度(本年度)

検定問題を Web で公開し、家庭や地域でいつでも楽しむことのできる「検定」として提供する。

Ⅱ これまでの研究概要

1 1年次（平成28年度）の概要

(1) 検定問題の試作

千代田学事業の初年度にあたる平成28年度は、千代田区についての情報収集が大きな課題であり、検定問題の作成にあたっては、児童の興味・関心、生活や学習の実態の把握を重視し、情報収集を進めた。千代田区教育委員会、千代田区立小学校等の協力や指導を得て、検定問題の試作を行い、その中から10問を「お試し版」として冊子にまとめた。

他の自治体による「子ども郷土検定」を参考に、検定問題の構成は、「問題—選択肢（四択）—答え—解説」とした。その他、検定問題の難易度の目安を「★」の数で示したり、「ここで一句」を添えて情報がより印象的に提示したりするなどの工夫を加えたことが、「千代田区子ども検定」ならではの特色と言えるだろう。これは、発信にあたって、児童の「楽しさ」や「興味・関心」を第一に、郷土への意識を醸成することを意図したためである。



千代田区子ども検定・お試し版（全10問）で取り上げた内容は、以下のようである。

- ① 千代田区歌の歌詞
- ② 東京駅の丸の内駅舎・南北ドームのデザイン
- ③ 靖国神社にある標本木
- ④ 錦華小学校（現・お茶の水小学校）出身の人物（夏目漱石）
- ⑤ 神田神保町の古書店の数
- ⑥ 日本武道館の屋根
- ⑦ 北の丸公園の天然記念物
- ⑧ 千代田区で行われている日本三大祭（神田祭）
- ⑨ 国会議事堂の工事にかかわった人数
- ⑩ ラジオ体操発祥の地（佐久間公園）

(2) 研究の成果と課題

「千代田区子ども検定」の第一次案として、「お試し版」を作成・発信し、その過程及び結果から、以下の点を明らかにすることができた。

①地域素材の教材化、発信の必要性

「千代田区子ども検定・お試し版」における全10問の学年ごとの正答率を見ると、第3学年が55%、第4学年から第6学年は64~65%という結果であった。これは、学年が進んでも地域に関する情報獲得が充実するとは限らないということを示している。

「お試し版」では問題数が10問と極めて少ないため断定することはできないが、情報収集力、行動力ともに大きく伸びると考えられるこの時期に、地域に関する情報が増加していないとするならば、児童が地域素材にふれる機会を積極的に設け、地域への愛着や誇りを実感できるよう働きかけていくことは極めて重要である。「地域素材にふれる機会」は多様に想定することができるが、「千代田区子ども検定」を作成・発信していく試みもまた、ささやかながらその機会の一つとして意義あるものと考えられることができるだろう。

②検定問題作成の視点

「お試し版」の作成を経て、検定問題の作成においては次の視点が必要であることが改めて確認された。

○検定問題に盛り込む情報の質

ゼミ生が作成した検定問題を検討していく中で、「何を問うか」は常に課題となったことである。同じ対象を取り上げるにしても、何にスポットを当てて問題を構成するかによって、検定問題としての質の良し悪しが変わる。情報を提供する側に十分な知識が必要であることから、検定問題発信に向けて責任ある情報収集に努める必要がある。

○児童の側に立った検定問題作成

作成した検定問題の中で、児童の生活や学習の実態とかけ離れている問いにおいては児童が勘に頼って答えていると思われる状況も見られ、大きな反省点であった。問題作成に当たっては、単なる情報提示にとどまることなく、児童が楽しみながら取り組める内容にしていく必要がある。そのためには、千代田区観光協会等との接点を増やしたり地域のイベントに積極的に参加したりして、地域の情報を入手する努力を重ねることが大切であろう。児童の日常生活や学習などに密着した問題作成には、作成者自らが地域に親しみをもつことが不可欠である。

○検定問題における固有名詞、難語句等の提示方法

地域素材には、地名や人名などが多く含まれるが、これが児童にとって大きな抵抗になる。また、児童にわかりやすい言葉に言い換えようとする、反対にわかりにくくなってしまうということもある。「お試し版」は、小学校第3学年以上の児童を対象としたため、「学年別漢字配当表」に照らして第3学年の児童が読めるようルビを振るなどしたが、児童の知識や語彙にも配慮した問題作成が必要である。

検定問題の中で提示した写真、特設したマスコットキャラクター「ハクチョ博士」などは、児童にとって「わかりやすさ」とともに「親しみやすさ」も感じられるものであったようである。これらのさらなる活用も検討したい。

③「検定問題」の趣旨を明確化することの必要性

「千代田区子ども検定」は、いわゆる「ご当地検定」のジュニア版であり、地域の文化、歴史、自然などが問われるものである。児童にとっては、社会科の地域学習の一環と考える者もいるだろう。しかし、検定問題は、学力を測定するテストではない。検定問題で取り上げられている内容に興味・関心が高まることを意図するものであるが、児童の中には検定問題がテストの延長線上にあるものと受けとめ、何らかの抵抗や困難を感じている者もいるようである。

そのため、「千代田区子ども検定」の趣旨を児童にわかりやすく伝え、ここで得た知識や情報を生活に生かしていこうとする意識、意欲を喚起できるよう改善する必要がある。

2 2年次（平成29年度）の概要

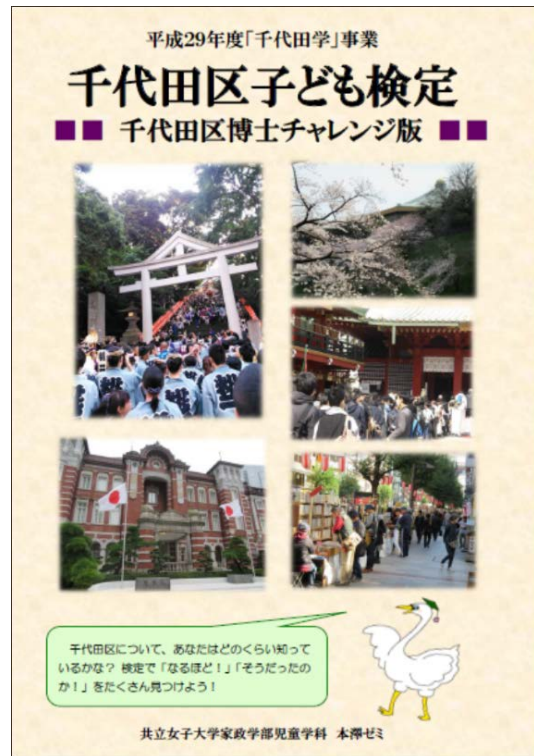
(1)「千代田区博士チャレンジ版」の構成

平成29年度は、検定問題50問を収録したB5版の冊子を作成した。

検定問題作成に当たっては、前年度の研究により明確になった課題（①検定問題に盛り込む情報の質、②児童の側に立った検定問題作成、③検定問題における固有名詞、難語句等の提示）をふまえ、これを解決すべく問題の吟味を重ねた。

また、児童の中には検定問題がテストの延長線上にあるものと受けとめ、何らかの抵抗や困難を感じている者も見られたため、「テスト色」を感じさせない紙面構成を検討した。

本冊子は、区立お茶の水小学校第3～6学年児童に配付し、うち第3～5学年を対象に調査を行った。



①「なるほどメーター」の特設

「なるほどメーター」とは、29年度に作成した「千代田区子ども検定・千代田区博士チャレンジ版」において特設したものである。児童がそれぞれの問題を解き、解説を読んだ後、知識や情報を初めて得たり、内容に対する興味・関心が高まったりしたかどうか、0から100で数値化できるようにしている。（次ページ太枠の箇所）

これは、児童の「なるほど」という満足度を測ると同時に、児童による検定問題の評価ととらえることもできる。すなわち、この「なるほどメーター」を集約することにより、児童の興味・関心の傾向を把握することができ、今後の検定問題の改善にも役立てることが期待できると考えた。

第38問

むずかしさ

★★★

「東京の桜が咲きました」というニュースは、その土地の基準となる特定の木の状態を見て発表されています。その基準となる木のことを「標本木」といい、47都道府県すべてで決められています。では、東京都の標本木はどこにあるでしょう。

- ① 皇居
- ② 北の丸公園
- ③ 靖国神社
- ④ 日枝神社



「桜の標本木」のかんばん

靖国神社にあるソメイヨシノが東京の標本木とされ、5～6輪咲くと開花、8割が咲くと満開となります。一般の人でも自由に見ることができる桜なので、みなさんも実際に見に行つて「東京の桜はいつ咲くのかな」と確かめてみてくださいね。



靖国神社「桜の標本木」

ここで一句 5輪咲き春のおとずれ知らせてる



なるほどメーター



【正解 ③ 靖国神社】


② 『千代田区子ども検定』を受けて」欄の特設

検定冊子の巻末に、自由記述のアンケートを特設した。

「なるほどメーター」の数値とともに、検定問題を体験することによって児童の意識がどのように変容しているかを把握するためのものである。

| 「千代田区子ども検定」を受けて | |
|------------------------------------|--|
| 行ってみたくなった場所 は？ | |
| 参加してみたくなったイ ベントは？ | |
| 家族や検定を受けていな い友達に教えてあげたい ことは？ | |

「千代田区子ども検定」を最後までといてくれてあり
がとう！！
検定を受けて、行ってみたくなった場所や参加して
みたくなったイベントはあったかな。
これからも、千代田区のすてきなところをたくさん
発見して、みんなに伝えてね。



(2) 「なるほどメーター」による児童の意識

① 「なるほど値」の集計結果

児童が各問の「なるほどメーター」に記入した数値を集計し、以下の結果を得た。

表1は、各問の「なるほど値」を学年別に集計したものである。表2は、学年を通じた「なるほど値」をまとめている。

表1 3～5学年児童回答による「なるほど値」

| 問題番号 | 内 容 | 3年 (n=35) | 4年 (n=42) | 5年 (n=40) | 3～5年 (n=117) |
|------|----------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 1 | 区の人口 | 65.9 | 66.9 | 55.0 | 62.5 |
| 2 | 「千代田」の由来 | 66.9 | 75.5 | 62.4 | 68.4 |
| 3 | 区の花 桜 | 51.0 | 52.4 | 48.3 | 50.5 |
| 4 | 姉妹都市 | 68.1 | 64.3 | 47.4 | 59.7 |
| 5 | 区の面積 | 64.4 | 71.2 | 63.8 | 66.6 |
| 6 | 区の木 松 | 57.6 | 69.0 | 59.1 | 62.2 |
| 7 | 千代田区歌 | 60.3 | 66.1 | 45.5 | 57.3 |
| 8 | ちよくる | 46.1 | 59.5 | 45.4 | 50.7 |
| 9 | 区の鳥 白鳥 | 60.4 | 67.3 | 57.6 | 61.9 |
| 10 | 皇居の郵便番号 | 65.6 | 76.8 | 64.1 | 69.1 |
| 11 | 千代田区との隣接区 | 51.4 | 56.5 | 52.9 | 53.8 |
| 12 | 一口坂（読み方） | 75.7 | 72.4 | 60.8 | 69.4 |
| 13 | 気象科学館 はれるん | 60.4 | 69.6 | 52.3 | 60.9 |
| 14 | 竹橋 | 61.6 | 65.6 | 65.8 | 64.4 |
| 15 | 秋葉原小売店 | 59.0 | 62.5 | 48.5 | 56.7 |
| 16 | 東京国際フォーラム | 57.9 | 66.0 | 53.9 | 59.4 |
| 17 | 最高裁判所 | 69.0 | 73.0 | 53.6 | 65.2 |
| 18 | 聖橋 | 62.6 | 62.4 | 49.3 | 57.9 |
| 19 | 男坂・女坂 | 38.1 | 53.9 | 42.3 | 45.2 |
| 20 | 和田倉噴水公園 | 55.4 | 66.7 | 52.4 | 58.4 |
| 21 | インド大使館 | 61.8 | 73.0 | 52.9 | 62.8 |
| 22 | 昭和館 | 55.4 | 62.4 | 58.3 | 58.9 |
| 23 | 幽霊坂 | 67.0 | 59.1 | 48.5 | 57.8 |
| 24 | 滝沢馬琴 | 64.1 | 61.8 | 58.4 | 61.3 |
| 25 | 国立劇場 黒子 | 57.9 | 54.8 | 47.0 | 53.0 |
| 26 | まないた橋 | 63.6 | 69.0 | 50.8 | 61.2 |
| 27 | 日比谷公園の広さ | 70.4 | 76.0 | 61.8 | 69.4 |
| 28 | ニコライ堂・三菱一号館美術館 | 68.9 | 66.6 | 57.4 | 64.1 |
| 29 | イギリス大使館 | 67.3 | 63.0 | 53.0 | 60.8 |
| 30 | 和泉橋防災船着場 | 60.6 | 65.4 | 53.5 | 59.9 |
| 31 | 三崎稻荷神社 | 67.0 | 66.1 | 45.6 | 59.4 |

| | | | | | |
|----|--------------|------|------|------|------|
| 32 | 昌平坂（団子坂） | 64.9 | 66.7 | 59.3 | 63.6 |
| 33 | 佐久間公園 | 63.7 | 62.5 | 45.2 | 56.9 |
| 34 | 国会議事堂 | 65.6 | 69.0 | 60.5 | 65.1 |
| 35 | 神田神社神田祭 | 60.2 | 61.3 | 44.4 | 55.2 |
| 36 | 北の丸公園 ヒカリゴケ | 72.3 | 67.3 | 48.6 | 62.4 |
| 37 | 夏目漱石 | 49.4 | 45.8 | 35.6 | 43.4 |
| 38 | 靖国神社 標本木 | 61.4 | 69.0 | 55.8 | 62.2 |
| 39 | 東京駅 | 69.9 | 67.9 | 47.3 | 61.4 |
| 40 | 区の橋 | 75.6 | 73.2 | 60.3 | 69.5 |
| 41 | 御厩谷坂（読み方） | 70.4 | 70.8 | 56.8 | 65.9 |
| 42 | 皇居の広さ | 75.0 | 73.8 | 59.1 | 69.1 |
| 43 | 坂の名前（存在しない坂） | 72.9 | 68.5 | 55.1 | 65.2 |
| 44 | 学士会館 | 59.2 | 65.5 | 54.0 | 59.7 |
| 45 | 平河天満宮 | 63.1 | 76.8 | 57.6 | 66.2 |
| 46 | 楠木正成 | 70.6 | 69.1 | 56.1 | 65.1 |
| 47 | 神田古本街 書店の数 | 59.3 | 72.0 | 52.9 | 61.7 |
| 48 | 東京大神宮 | 70.1 | 71.4 | 70.0 | 70.6 |
| 49 | 東京宝塚劇場 ルパン三世 | 69.7 | 73.7 | 54.9 | 66.1 |
| 50 | 日本武道館 | 68.1 | 70.4 | 55.9 | 64.7 |

表2 3～5学年における「なるほど値」平均（降順）

| | 問題番号 | 内 容 | 「なるほど値」平均 |
|----|------|----------------|-----------|
| 1 | 48 | 東京大神宮 | 70.6 |
| 2 | 40 | 区の橋 | 69.5 |
| 3 | 27 | 日比谷公園の広さ | 69.4 |
| 4 | 12 | 一口坂（読み方） | 69.4 |
| 5 | 42 | 皇居の広さ | 69.1 |
| 6 | 10 | 皇居の郵便番号 | 69.1 |
| 7 | 2 | 「千代田」の由来 | 68.4 |
| 8 | 5 | 区の面積 | 66.6 |
| 9 | 45 | 平河天満宮 | 66.2 |
| 10 | 49 | 東京宝塚劇場 ルパン三世 | 66.1 |
| 11 | 41 | 御厩谷坂（読み方） | 65.9 |
| 12 | 43 | 坂の名前（存在しない坂） | 65.2 |
| 13 | 17 | 最高裁判所 | 65.2 |
| 14 | 46 | 楠木正成 | 65.1 |
| 15 | 34 | 国会議事堂 | 65.1 |
| 16 | 50 | 日本武道館 | 64.7 |
| 17 | 14 | 竹橋 | 64.4 |
| 18 | 28 | ニコライ堂・三菱一号館美術館 | 64.1 |
| 19 | 32 | 昌平坂（団子坂） | 63.6 |

| | | | |
|----|----|-------------|------|
| 20 | 21 | インド大使館 | 62.8 |
| 21 | 1 | 区の人口 | 62.5 |
| 22 | 36 | 北の丸公園 ヒカリゴケ | 62.4 |
| 23 | 6 | 区の木 松 | 62.2 |
| 24 | 38 | 靖国神社 標本木 | 62.2 |
| 25 | 9 | 区の鳥 白鳥 | 61.9 |
| 26 | 47 | 神田古本街 書店の数 | 61.7 |
| 27 | 39 | 東京駅 | 61.4 |
| 28 | 24 | 滝沢馬琴 | 61.3 |
| 29 | 26 | まないた橋 | 61.2 |
| 30 | 13 | 気象科学館 はれるん | 60.9 |
| 31 | 29 | イギリス大使館 | 60.8 |
| 32 | 30 | 和泉橋防災船着場 | 59.9 |
| 33 | 44 | 学士会館 | 59.7 |
| 34 | 4 | 姉妹都市 | 59.7 |
| 35 | 16 | 東京国際フォーラム | 59.4 |
| 36 | 31 | 三崎稻荷神社 | 59.4 |
| 37 | 22 | 昭和館 | 58.9 |
| 38 | 20 | 和田倉噴水公園 | 58.4 |
| 39 | 18 | 聖橋 | 57.9 |
| 40 | 23 | 幽霊坂 | 57.8 |
| 41 | 7 | 千代田区歌 | 57.3 |
| 42 | 33 | 佐久間公園 | 56.9 |
| 43 | 15 | 秋葉原小売店 | 56.7 |
| 44 | 35 | 神田神社神田祭 | 55.2 |
| 45 | 11 | 千代田区との隣接区 | 53.8 |
| 46 | 25 | 国立劇場 黒子 | 53.0 |
| 47 | 8 | ちよくる | 50.7 |
| 48 | 3 | 区の花 桜 | 50.5 |
| 49 | 19 | 男坂・女坂 | 45.2 |
| 50 | 37 | 夏目漱石 | 43.4 |

②考察

「なるほどメーター」の集計結果から、児童の興味・関心の傾向を把握することができ、検定問題を作成する側にとって非常に意味のある数値を得ることができた。「なるほど値」の高い問題をみると、以下のようなことが考察される。

○意外性のある内容

児童にとって、身近な話題ではあるが、今まで考えたことがなかったような内容に「なるほどメーター」の反応が高くなっている。例えば、以下のような問題である。

第 40 問

千代田区にはたくさんの橋があります。神田川にかかる橋だけでも、13本もあります。では、千代田区内にどのぐらい橋があるでしょう。
(答え 52本)

千代田区には橋が多いが、だれしもそれと意識せず、橋を渡ったり川を眺めたりしている。橋の数を問われても戸惑うに違いないが、児童にとってはこれが意外性のある問題と感じられるのであろう。このような問題を通して、千代田区の地形にも意識が向いていくことを意図するものである。

第 27 問

ビジネス街のビルが立ちならぶ中、緑豊かな安らぎの場となっている日比谷公園。みなさんも、遊んだり、イベントに参加したりしたことがあるでしょう。
この日比谷公園の面積は千代田区内の小学校8校分と比べてどのぐらい広いでしょう。
(答え 千代田区の小学校8校分の4倍)

区内の小学生であれば、日比谷公園が広いと感じたことのある者は多いはずである。しかし、その広さは具体的に把握できていないわけではないただろう。自分たちの通う小学校と比較することにより、改めてその広さを実感することができるだろう。

○地名への興味

第 2 問

千代田区は、昭和 22 (1943) 年に麹町区と神田区が合併して誕生しました。この「千代田」という名前は、どのようなことから決まったものでしょう。
(答え 江戸城の別の名前が千代田城だったことから)

第 12 問

千代田区の坂の中には、読み方がむずかしい坂もあります。「一口坂」は、何と読むのでしょうか。
(答え いもあらいざか)

地名への興味は高く、特に変わった読み方をする地名には興味・関心が集中する傾向が見られる。第 41 問「御厩谷坂」の読み方を問う問題も同様に高い「なるほど値」を示している。なぜそのような地名がつけられたのかを考えたり調べたりすることにより、史実や地形の特徴にふれる機会にもなるだろう。

また、ここで知識を得た経験がさらに意識化されることも期待できる。例えば、区内の坂を歩いているときに「この坂は何という名前だろう」「そういえば千代田区には坂が多い」のように、個々の興味や意識が広がっていくなどである。

○初めて得た雑学的な知識・情報

第 10 問

千代田区の歴史、自然の中心となっている皇居。

みなさんの家の住所に郵便番号があるように、皇居にも郵便番号があります。では、皇居の郵便番号は、どのような番号でしょう。 (答え 100-0001)

第 45 問

これは、千代田区のある場所です。牛の石像が置かれています。

さて、この場所はいったいどこでしょう。

(答え 平河天満宮)



第 48 問

飯田橋駅の近くにある東京大神宮は、歴史的に貴重な神社として東京五社の一つに選ばれ、昔から多くの人に親しまれてきました。

この東京大神宮は、あることを初めて行った場所として知られています。それはどんなことでしょうか。 (答え 神前式の結婚式)

第 49 問

千代田区有楽町には東京宝塚劇場があります。宝塚は、未婚の女性だけで構成された歌劇団で、大正 3 (1914) 年に初公演を行って以来、人気を得ています。

宝塚劇場では、近ごろ、人気漫画やゲームを舞台化した公演を行い、話題となっています。では、実際に宝塚歌劇団が上演したことのある作品はどれでしょう。 (答え ルパン三世)

平河天満宮、東京大神宮、東京宝塚劇場などは、児童にとって馴染みのない場所であると考えられたため、できるだけ児童の生活に近い内容を取り上げて問題を構成するようにした。例えば、東京宝塚劇場の問題では、選択肢を「①ちびまる子ちゃん、②ゲゲゲの鬼太郎、③ルパン三世、④ワンピース」としたことにより、児童にとって親近感がわいたものと考えることができる。問題の取り上げ方により、新たに興味や親しみをもたせることも可能であることを示す例である。

皇居から郵便番号の付番が始まることについての問題は、学年の差は見られるが、日頃の生活と密着した内容であり、皇居のある区としての誇り、愛着なども高めることができるものであると考える。

(3) 検定を受けた児童の感想

① 検定によって喚起された興味・関心

検定によって喚起された興味・関心を把握するため、児童には「行ってみたいくなった場所」「参加してみたいイベント」として自由記述してもらった。

検定問題に啓発されて「行ってみたい」と思うようになった場所は、表6に示す通り、多様な記述がなされている。この欄にこれだけ多くの記述がなされたことは、児童の印象に残る事柄の豊かさを示しているにとらえてよいだろう。

特に、上位の「幽霊坂」、「東京宝塚劇場」などは、検定問題によって興味・関心が喚起されたと確信できるものである。

「幽霊坂」については、「ちょっとこわい名前がついている坂もあります」と興味をひくような問題提示をしたことや、選択肢を「①化け物坂 ②妖怪坂 ③心霊坂 ④幽霊坂」としたことにより、児童の印象に焼き付き、どのような坂なのか実際に行ってみてみたいと思うようになったと考えることができる。

「東京宝塚劇場」への反応が集まっているのは、劇場で「ルパン三世」が上演されていることへの驚きや意外性が強く印象づけられ、実際に鑑賞してみたいと考えるようになったためであろう。東京宝塚劇場などは、児童の実生活にはやや疎遠であると考えられるため、検定問題作成にあたって苦慮する素材であるが、この例のように、児童の興味・関心にそった内容を見だし、問題として構成することによって、新鮮味のある問題として提供することも可能である。

また、「和田倉噴水公園」は、検定問題の中で紹介している噴水の画像が美しく、実際に見てみたいと考えるようになったようである。

「昭和館」、「皇居」などは、児童にとって社会科見学や校外学習などで出かけた経験があるはずであるが、検定で新たな情報を得たことにより、興味が喚起されたと考えることができる。

このように、検定問題は、その提示の仕方によって、児童の意識化、行動化の契機としてはたらく可能性を十分にもっていると考えてよいだろう。

表3 検定を受けて行ってみたいとなった場所

| | 問題番号 | 行ってみたいとなった場所 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 |
|----|------|--------------|----|----|----|----|
| 1 | 23 | 幽霊坂 | 6 | 3 | 5 | 14 |
| 2 | 49 | 東京宝塚劇場 | 3 | | 5 | 8 |
| 3 | 20 | 和田倉噴水公園 | 2 | 5 | 1 | 8 |
| 4 | 22 | 昭和館 | 3 | 2 | 2 | 7 |
| 5 | 42 他 | 皇居 | 3 | 3 | 1 | 7 |
| 6 | 48 | 東京大神宮 | 3 | 1 | 2 | 6 |
| 7 | 26 | まないた橋 | 3 | 2 | | 5 |
| 8 | 13 | 気象科学館 | 2 | 3 | | 5 |
| 9 | 43 | ちこく坂 | 2 | 2 | | 4 |
| 10 | 39 | 東京駅 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| 11 | 17 | 最高裁判所 | 1 | | 3 | 4 |
| 12 | 32 | 団子坂 | 2 | 1 | 1 | 4 |
| 13 | 25 | 国立劇場 | 1 | 3 | | 4 |
| 14 | 29 | イギリス大使館 | | 1 | 3 | 4 |
| 15 | 45 | 平河天満宮 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 16 | 34 | 国会議事堂 | | 1 | 2 | 3 |
| 17 | 35 | 神田神社 | | 2 | | 2 |
| 18 | 12 | 一口坂 | 2 | | | 2 |
| 19 | 31 | 三崎稲荷神社 | 1 | | 1 | 2 |
| 20 | 35 | 日枝神社 | 2 | | | 2 |
| 21 | 37 | お茶の水小学校 | 2 | | | 2 |
| 22 | 50 | 日本武道館 | | 1 | 1 | 2 |
| 23 | 43 | だるま坂 | | 2 | | 2 |
| 24 | 21 | インド大使館 | | 1 | 1 | 2 |
| 25 | 24 | 滝沢馬琴硯の井戸跡 | 2 | | | 2 |
| 26 | 33 | 佐久間公園 | 1 | 1 | | 2 |
| 27 | 19 | 男坂・女坂 | | 1 | 1 | 2 |
| 28 | 41 | 御厩谷坂 | 1 | | | 1 |
| 29 | 43 | ごみ坂 | 1 | | | 1 |
| 30 | 28 | ニコライ堂 | 1 | | | 1 |
| 31 | 18 | 聖橋 | 1 | | | 1 |
| 32 | 36 | 北の丸公園 | 1 | | | 1 |
| 33 | 44 | 学士会館 | | 1 | | 1 |
| 34 | 38 | 靖国神社 | 1 | | | 1 |
| 35 | 18 | 水道橋 | 1 | | | 1 |
| 36 | 28 | 三菱一号館美術館 | 1 | | | 1 |
| 37 | 16 | 東京国際フォーラム | 1 | | | 1 |
| 38 | 15 | 秋葉原電気街 | 1 | | | 1 |
| 39 | 27 | 日比谷公園 | | | 1 | 1 |
| 40 | 18 | 二重橋 | | | 1 | 1 |

| | | | | | | |
|----|----|--------------|--|--|---|---|
| 41 | 11 | 文京区 | | | 1 | 1 |
| 43 | | 千代田区のいろいろな場所 | | | 1 | 1 |
| 44 | | 千代田区のいろいろな坂 | | | 1 | 1 |

下の表4は、検定を受けて、参加してみたくなかったイベントを自由記述してもらった結果である。

本検定の協力校の近くに神田神社があるため、「神田祭」を挙げている児童が多いことには納得がいく。これは、初めて知ったというよりも、検定を通して、身近な神社で行われている祭の価値を再認識したととらえてよいだろう。神田神保町の「古本まつり」なども、学区から近い場所で開催されているイベントであることから、親しみがわいたと考えられる。

「最高裁判所」は、児童にとって抵抗を感じやすい素材であることが予想されたため、「法の日」の記念撮影というイベントを取り上げて検定問題を構成した。こうした配慮が、児童の興味・関心の喚起につながったと考えられる。

「日枝神社 山王祭」や「靖国神社 みたままつり」などは、選択肢の一つとして掲げているだけであるが、参加してみたいと答えている児童が見られることから、選択肢に掲げる示す内容への配慮も落としてはならない点である。

表4 参加してみたくなかったイベント

| | 問題番号 | イベント | 3年 | 4年 | 5年 | 計 |
|----|------|--------------------|----|----|----|----|
| 1 | 35 | 神田祭 | 2 | 4 | 6 | 12 |
| 2 | 47 | 古本まつり、ブックフェスティバル | 3 | 3 | 3 | 9 |
| 3 | 17 | 最高裁判所 裁判官の服を着て記念撮影 | 2 | 6 | 1 | 9 |
| 4 | 27 | 日比谷公園の盆踊り | 3 | 4 | 1 | 8 |
| 5 | 33 | 佐久間公園のラジオ体操 | | 4 | 3 | 7 |
| 6 | 30 | 神田川の川下り | 4 | 1 | 1 | 6 |
| 7 | 49 | 東京宝塚劇場の「ルパン三世」 | 3 | 1 | 1 | 5 |
| 8 | 16 | 東京国際フォーラム | 2 | 3 | | 5 |
| 9 | 35 | 日枝神社 山王祭 | 1 | | 3 | 4 |
| 10 | 21 | インド大使館のさくらフェスティバル | 1 | 2 | | 3 |
| 11 | 31 | 三崎稲荷神社 百度石 | 1 | | 1 | 2 |

| | | | | | | |
|----|----|--------------|---|---|---|---|
| 12 | 22 | 昭和館 | | 1 | 1 | 2 |
| 13 | 25 | 国立劇場 | 1 | | | 1 |
| 14 | | 千代田区のお祭り | 1 | | | 1 |
| 15 | 29 | イギリス大使館のお花見 | 1 | | | 1 |
| 16 | 19 | 男坂・女坂 | 1 | | | 1 |
| 17 | 46 | 楠木正成像 | 1 | | | 1 |
| 18 | | 自然にふれられるイベント | | 1 | | 1 |
| 19 | 35 | 靖国神社 みたままつり | | | 1 | 1 |

②新たに得た知識・情報

誰しも、初めて知ったこと、なるほどと思ったことなどは、だれかに知らせたくなるものである。そこで、「家族やこの検定を受けていない友達に教えてあげたいこと」として自由記述してもらい、児童の印象に残る情報を把握することを意図した。下の表5が示すように、検定の冊子のそれぞれのページで記入した「なるほどメーター」とはまた異なる、個々にとって印象深い内容が挙げられている。

また、「千代田区には坂が多い」などは、「坂」についての複数の問題を解くことによってはじめて理解できる内容であるが、これは児童による情報の総合化であり、単に1問ずつ解いていくだけでは得られない価値ある学びである。検定問題を作成する側も、こうした学びにも期待して、総合的な観点も見据えて問題構成を考えていく必要がある。

さらに、「この検定問題を解いてみたら」と勧めるような記述も見られ、こうした反応は作成者にとって手ごたえを実感させられるものであった。

表5 家族や検定を受けていない友達に教えてあげたいこと

| | 内 容 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 |
|---|--------------------|----|----|----|---|
| 1 | 一口坂の読み方 | 1 | 4 | 1 | 6 |
| 2 | 千代田区の橋の数 | | 3 | 2 | 5 |
| 3 | 日本武道館の屋根の形 | 2 | 2 | 1 | 5 |
| 4 | 北の丸公園の天然記念物(ヒカリゴケ) | | 2 | 2 | 4 |
| 5 | まないた橋があったこと | 2 | 1 | 1 | 4 |
| 6 | 東京駅 | 1 | | 3 | 4 |
| 7 | 幽霊坂 | 2 | | 1 | 3 |
| 8 | 学士会館は野球発祥の地 | 1 | 2 | | 3 |

| | | | | | |
|----|---------------------------|---|---|---|---|
| 9 | 国会議事堂を作るのにおおぜいが働いたこと | 2 | | 1 | 3 |
| 10 | 三崎稻荷神社 | | 3 | | 3 |
| 11 | いろいろなことがわかるから検定をやってみてください | 3 | | | 3 |
| 12 | 千代田区には皆が知らないことがたくさんある | | 2 | 1 | 3 |
| 13 | 千代田区にはいろいろな場所や祭りがあり楽しい | 1 | | 1 | 2 |
| 14 | 昭和館 | 1 | 1 | | 2 |
| 15 | 竹橋の由来 | | 1 | 1 | 2 |
| 16 | 東京宝塚劇場（ルパン三世） | 2 | | | 2 |
| 17 | 問題にでてきたもの全部 | 1 | | 1 | 2 |
| 18 | 最高裁判所の記念撮影 | | | 1 | 1 |
| 19 | 東京大神宮 | | | 1 | 1 |
| 20 | 皇居の広さ | | | 1 | 1 |
| 21 | 坂の名前がおもしろいこと | 1 | | 2 | 3 |
| 22 | 千代田区は23区の中で19番目に大きい | 1 | | | 1 |
| 23 | この検定は結構難しい | | 1 | | 1 |
| 24 | 千代田区の歴史を家族に伝えたい | 1 | | | 1 |
| 25 | 神保町の本屋の数 | | 1 | | 1 |
| 26 | 千代田区には坂が多い | | | 1 | 1 |
| 27 | ごみ坂 | 1 | | | 1 |
| 28 | 古本祭り | 1 | | | 1 |
| 29 | 団子坂 | | 1 | | 1 |
| 30 | 千代田区のいろいろな場所 | | 1 | | 1 |
| 31 | 千代田区のいろいろな文化 | | | 1 | 1 |
| 32 | この本はたくさんいい検定クイズがのっているよ | | | 1 | 1 |
| 33 | 気象科学館のはれるん | | | 1 | 1 |
| 34 | 楠木正成の像があること | | | 1 | 1 |
| 35 | 夏目漱石はお茶の水小学校出身であること | | | 1 | 1 |

(4) 研究の成果と課題

前年度の「千代田区子ども検定」の第一次案をふまえ、29年度は検定問題50問からなる「千代田区博士チャレンジ版」を作成・発信した。作成・発信の過程および結果から、以下の点を明らかにすることができた。

①児童の興味・関心を喚起する検定問題の作成

検定問題に「なるほどメーター」を設定し、児童の反応を把握することができた。特

に、意外性のある内容、地名への興味・関心、初めて得た雑学的な知識・情報に「なるほど値」が高くなるという結果をふまえ、今後、検定問題として取り上げる内容の検討を重ねていく必要があることが確認された。

また、検定を受けた児童の感想から、問いの設定によって興味・関心が大きく左右されることが確認された。例えば、日頃、気にとめることのない「坂」の名前に着目できるように問いを吟味することにより、児童はその坂に実際に行ってみたいと思うようになる、という変容が期待できる。児童の目線に立って、そこで行われているイベントを紹介すれば参加してみようとする関心が高めることもできるはずである。

当然のことではあるが、検定問題は、出題する側の配慮、意図によって、さらに意義あるものにすることができる。ここでの研究によって、地域検定の可能性をより明確に見出すことができたと考える。

② Webによる公開に向けて

最終年度では、これまでに作成した検定問題の発信の場として、Web公開を計画している。そのため、検定問題の情報としての確かさをこれまで以上に精査していく必要がある。Webデザインの検討も含め、先行事例などを参考に、児童にとって楽しく興味のもつことができる検定問題のあり方についてさらに検討を重ね、児童の郷土意識の醸成に役立つ検定とするための方策を明らかにしていく必要がある。

Ⅲ 本年度の研究

1 「千代田区子ども検定 Web 版」の構成

これまでに冊子として発信してきた「千代田区子ども検定」を Web 公開し、広く活用していただけるようにすることが本年度の目的である。

前年度までに作成してきた問題の妥当性を検討することに加え、検定問題を解く上で、児童の興味・関心を喚起するためにどのような配慮が求められるかという点から、Web 版を構想していった。

Web 版は、ボランティア団体 chee' s 島田涼子氏に画面のデザインを、共同研究者である共立女子大学文芸学部 藤田岳久教授に Web のプログラム作成を依頼し、協議を重ねて以下のように構成するに至った。

①音声ボタンの特設

地域の検定問題には、地名、人名などの固有名詞などが登場するのは当然のことであるが、これらの漢字表記が受検者である児童の意欲を減退させてしまうことは想像に難くない。これまで作成してきた検定冊子では、第3学年以上の児童が読めるようにルビを施してきたが、Web 版ではこれをさらに改善し、音声ボタンを付けることにより、問題を聞きながら検定を楽しむことができるようにした。

録音は、本澤ゼミの卒業生であり、実際に「千代田区子ども検定」の作成にも携わっていた武藤萌香氏に依頼した。録音施設として、千代田区高齢者総合サポートセンターかがやきプラザ録音室を借用した。



②興味・関心のあるジャンルを選択できる構成
 トップページ（図1）から進むと「コースの
 選択画面1」（図2）となる。

通常、地域検定問題は主催者が提示した問
 題を順に解いていくだけであるが、ここで
 は、興味・関心に応じてコースを選択でき
 るようにした。

「千代田区の検定にチャレンジ!」は、千代
 田区内の文化、歴史、自然などを網羅したも
 のである。また、「小学校別の検定にチャレン
 ジ!」では学区ごとの問題に挑戦できるよう
 な構成としている。

図2の「千代田区の検定にチャレンジ!」
 を選択すると、図3のようにコースがさらに
 細分化されて示される。「区民のきほん」、
 「祭り・イベント」などと並んで、千代田区なら
 での「皇居」「川・橋・坂」なども示されて
 いるのが特徴である。

「小学校別の検定にチャレンジ!」では、社
 会科で地域学習を始める3年生に、学習への
 親しみをもつきっかけとなるよう構成したも
 のである。自分の在籍する小学校学区の問題を
 解くことによって、地域に親しみを感じたり、
 さらに知ってみたいと思うようになったりす
 ることを意図している。



図1 「千代田区子ども検定」トップページ

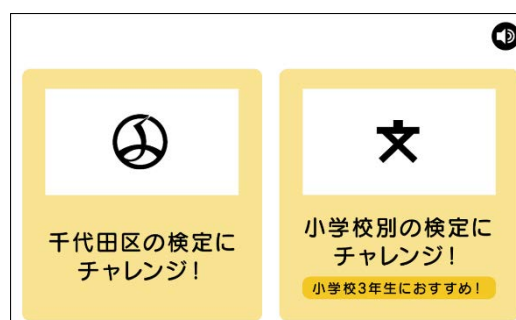


図2 コースの選択画面1



図3 コースの選択画面1-1



図4 コースの選択画面1-2

③地図の提示

検定問題を解き、知識を得ることはそれだけでも楽しいことであるが、実際にその問題で取り上げられている場所に行ってみようという行動化を促すことができれば、検定問題の活用範囲の広がりが期待できる。

そこで、「ここに行ってみよう」をクリックすると Google マップが表示されるようにし、実際に足を運ぶ機会となるようにした。



図5 「ここに行ってみよう」の設定

④判定ページの設定

検定問題を受けると、図6のような判定ページとなる。正答率100%の場合は、歓声の効果音が流れる。それ以下の場合は、効果音がドラムロールとなる。達成感、満足感が得られるよう配慮したものである。



図6 判定ページ

「千代田区子ども検定」URL

<https://bababa.org/chiyoda-kentei/>

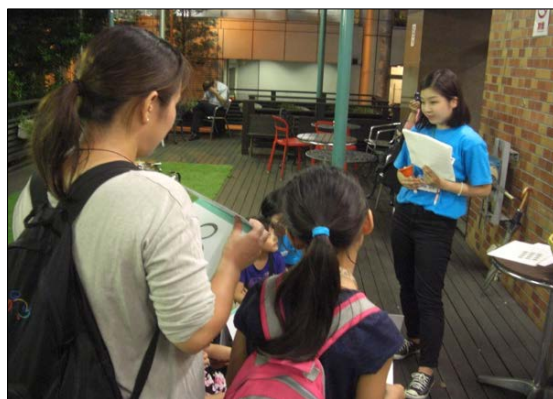
2 地域行事におけるデモンストレーション

検定問題 Web 版を発信するにあたって、内容の正確さ、適切さは不可欠であるが、これを体験する側はどのような興味・関心をもって臨むのか、実際の声を聞き、反応を確認することもまた重要である。こうした考えから、本年度は区内のさまざまな行事等に参加し、可能な限り検定問題を披露するようにした。

(1) 神田錦町ご縁日 神田錦町クイズ大会

2018年9月14日、ちよだプラットフォームスクウェア広場における第1回神田錦町ご縁日に参加し、神田錦町クイズとして地元の子供たちに問題提供を行った。

当日参加した子供たちは10名ほどであったが、多くが親子連れでクイズを楽しみ、「この近くのことなのに、今まで知らなかった」「これは社会科の勉強でやった」など、親しみをもった感想を聞くことができた。



お祭りの中でのクイズ大会であったため、PC使用が叶わず、口頭による問題提示、解説となったが、地域を題材にしたクイズという設定について、子供たちも保護者も興味を示したようである。

(2) 二番町こどもクラブにおける検定デモ

2019年1月7日、ボランティア団体chee's主催のエコかるた大会に参加した子供たちを対象に、検定問題を解いてもらい、その反応を観察した。

検定のトップ画面を見るだけで歓声が上がリ、コースの選択画面で自分たちの学校名を見つけるとさらに興味を示した。



千代田区の人口、制定されている花や鳥などの問題に対しては、「社会科で勉強したか

ら知っている」「勉強したけれど忘れた」などの声が多く聞かれ、学校での学習を想起しながら検定問題を楽しんでいることがうかがわれた。

当日参加した小学生のうち、中学年児童は社会科の既習事項と結びつけながら、また、高学年は歴史や地域にゆかりのある人物などに興味を示す傾向が見られ、総じてこのような形式の問題に新鮮味を感じたようであった。

(3)ちよともワールドカフェ

2018年4月21日、地域の交流活動「ちよとも」のワールドカフェの導入であるアイスブレイクにおいて、検定問題の紹介を行った。

この会の参加者は、区内に在住、在勤、在学している方々であるため、さまざまな角度から感想や意見をいただくことができた。何よりも、地域をこのような形で取り上げたことへの賛同の意見が多く、成人でも十分に楽しめるという声も聞かれた。



参加者の中に外国籍の方も見られ、外国から千代田区に来た方々にもこのようなクイズは役立つのではないかと、というご意見もいただいた。

さらに6月30日のちよともワールドカフェでは、本澤ゼミの学生がファシリテーターとなり、「郷土愛」をテーマに話し合いを深めた。「千代田区子ども検定」だけでなく茨城県で実施されているジュニア検定についても取り上げ、地域住民や地域の子供たちの郷土愛を高める取り組みのあり方についても幅広いご意見をいただくことができた。

(4) 高齢者あんしんセンター麹町における千代田区クイズ大会

2019年1月7日、ご高齢の方々を対象に、検定問題を「わくわく検定」として提供した。

地域の地理、歴史を取り上げた問題は、長年在住している方にとって親しみの感じられるものであったようである。中には、このクイズ大会に備えて千代田区の雑学に関する書籍をお持ちになって



会場で調べながら答える方まで見られ、こうしたイベントへの期待が強く伝わる一コマもあった。

これまでは検定問題の対象を小学生と限定していたが、ちよともワールドカフェや千代田区クイズ大会に参加者した方々の反応にふれ、今後、対象を広げていくことも十分に検討に値するものであると考える。

3 考察

本年度、検定問題をさまざまな方々に提供する活動を通して、検定問題は郷土愛を喚起するコミュニケーションツールとして活用することができるのではないかとの見通しを得た。対象も、社会科を学習する小学生はもちろんであるが、成人、ご高齢の方々へと広げていくことが可能であるとの手ごたえも得ることができた。



「ラボライブ！」における研究報告 2019.2.9

今後は、検定問題 Web 版により発信をしていくことに加え、これをツールにしてさまざまな地域交流活動に関わっていけるようにしたい。

また、次年度以降は、検定問題とリンクした「千代田区カルタ」の作成、「web ラヂオちよだ」とのコラボレーションなど、更なる活用、発展を考えていきたい。

IV 研究の成果と課題

(1) 成果

① 検定問題の独自の構成

3年間の実践的研究を通して、千代田区に関する検定問題 75 問を構成することができた。

これらの問題は、9つのジャンル「区民の基本」「祭り・イベント」「皇居」「歴史」「建物」「川・橋・坂」「人物」「自然・公園」「くらし」に分類し、興味のある問題に挑戦することができるという設定も、本検定問題の大きな特徴となった。

さらに、構成した 75 問を千代田区の 8つの学区ごとに分類して提供し、教科等の学習に対応するようにしたことも、本検定独自のよさである。特に、社会科の学習が始まる小学校 3年生に向けて、学習への抵抗を軽減するものとなると考える。

② 知識の獲得から行動化を促す構成

地域への意識を高めるには、単なる知識の獲得だけでなく、現地に足を運ぶ、参加するなどの行動化も必要となる。本検定においても、検定問題を解き、新たな知識を得ることができるだけでなく、実際に現地に行ってみたり地域のイベント等に参加したりと、行動化を促す構成とした。Google マップとリンクするようにしたのはこうした意図による。

③ 音声化等による親しみやすさへの配慮

検定問題の音読を録音し、問題を読むことを面倒と感じる子供たちにも検定問題が楽しめるように配慮した。

また、正解、不正解の効果音、判定ページの効果音等で、楽しく取り組めるようにしたのも本検定の特徴である。

(2) 課題

検定問題は、郷土愛を喚起するコミュニケーションツールとして活用することができるとの見通しを得た。対象も、社会科で地域について学習する小学生はもちろんであるが、成人、ご高齢の方々へと広げていくことが可能であるとの手ごたえも得た。今後は、検定問題を活用してさまざまな地域交流活動に関わり、地域についての意識を相互に高め合うことができるようにしたい。

次年度以降は、検定問題とリンクした「千代田区カルタ」の作成、検定問題で取り上げた地域を取材し紹介する番組作りなど、更なる活用、発展を検討したい。

参考文献

- ・千代田区区民生活部編『千代田まち事典－江戸・東京の歴史を訪ねて－』2005
- ・千代田区教育委員会『社会科副読本 わたしたちの千代田区』2014
- ・千代田区観光協会企画・奥野かるた店監修『千代田区“川柳”絵葉書かるた』2014
- ・千代田区観光協会『千代田あるき地図マップ&ガイド』
- ・千代田区ホームページ <https://www.city.chiyoda.lg.jp/index.html>
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」2017
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」2017
- ・秋沢富五郎、原昇「地域素材の教材化に関する基礎研究－素材の掘り起こしについて検討－」神奈川県立教育センター研究集録6、pp.7-12、1987
- ・伊藤重男『「ご当地検定」に関する実証研究：財団法人地域活性化センター『地域の魅力を発信するご当地検定調査研究報告書』を用いた実証的分析』名古屋経営短期大学紀要 51、pp.1-13、2010
- ・京都商工会議所編『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』淡交社、2016
- ・京都市教育委員会『歴史都市・京都から学ぶ ジュニア京都検定テキストブック(10版)』京都新聞出版センター、2015
- ・鎌倉商工会議所監修『新版 鎌倉観光文化検定公式ガイドブック』かまくら春秋社、2011
- ・秋田県商工会議所連合会『秋田ふるさと検定公式テキスト最新版』秋田文化出版、2016
- ・茨城県立歴史館編集『輝く茨城の先人たち』茨城県生活環境部、生活文化課、2016
- ・「いばらきっ子郷土検定ウェブサイト」www.ibaraki-kentei.jp/
- ・ジュニアかなざわ検定実行委員会「第11回ジュニアかなざわ検定小学生版」2016
- ・島田市地域生活部地域づくり課「島田市ご当地検定【子ども編】」2015
- ・「ゆるりら、十和田子ども検定」公式HP <http://www.towda.or.jp/kodomotentei/>

終わりに

3年間にわたって本事業を進めることにより、当初は想像もできなかったような収穫を得ることができた。

一つ目は、ゼミ生の意識の変容である。この研究に取り組むまでは、大学には通っているものの、千代田区について考えることなどほとんどなかった者ばかりであった。区内のさまざまな行事などについても関心を示さなかったゼミ生が、積極的に区ホームページなどで情報を得、取材に出かけるようになった。また、「千代田区」の研究を通して、「地域」のもつ豊かな教材性に気づき、学生自らの郷土を取り上げて卒業研究にするなど、学生の意識の向上が非常に強く感じられた。大学生のアクティブ・ラーニングの充実は大きな課題であるが、本研究の中にその目指すべき姿が見られたことを確信するものである。

二つ目は、検定問題の実施を通して、児童の日常の生活、学習の状況をうかがい知ることができたことである。3年間を通して千代田区教育委員会、千代田区立小学校等からご協力いただくことができ、この研究が推進できたことを改めて感謝申し上げる次第である。自分たちが発信しようとしている情報が千代田区の小学生にふさわしいものであるか、多くの方々からのご意見をいただき、検討を重ねることができた。今後も、地元の皆様や先生方のご意見を積極的にいただき、研究に反映させていきたいと考えている。

三つ目は、地域における行事等に参加させていただくことを通して、さまざまな交流が生まれたことである。千代田区の交流活動「ちよとも」、地域ボランティア団体 chee's、高齢者あんしんセンター麴町など、児童向けに作成してきた検定問題が、思いがけず広い世代にも歓迎され、活用の場の広がりを実感することができた。Web公開により、さらに多くの方々との交流が生まれれば、これは望外の喜びである。

最後になりましたが、3年間にわたり「千代田学」を通して実践・研究を実施する貴重な機会を与えてくださいました千代田区、ご助言をいただきました千代田区教育委員会に感謝申し上げます。また、本年度、共同研究者としてWeb公開にご尽力いただきました共立女子大学文芸学部 藤田岳久教授、私どもの検定問題を楽しんでくださり、ご支援くださった地域の皆様方に、心から感謝申し上げます。

平成31年3月 本澤 淳子

「千代田区子ども検定」

<https://bababa.org/chiyoda-kentei/>



平成30年度「千代田学」事業実績報告書

小学生を対象にした千代田区の地域素材の教材化に関する実践的研究

— 「千代田区子ども検定」の作成・発信 —

著 者 共立女子大学家政学部児童学科 本澤 淳子

発 行 共立女子大学家政学部児童学科 本澤研究室

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27

T E L 03-3237-2857 (研究室直通)

発行年月 平成 31 年 3 月 20 日

* 無断での転載はお断りいたします